

## 自分で考える環境対策

ノートルダム清心中学校 2年 胡 奈那

「う～わっほーっ！フナだ！フナっこ！フナっこ！」

これは、あつまれどうぶつの森、通称「あつ森」でフナが釣れたときのセリフだ。

「あつ森」は、新型コロナウイルス感染拡大中に、おうち時間を楽しめるとして人気を博した。その理由として、バーチャルで人と集まれる、自分の思うような島を作れるなどが挙げられるが、中でも大きいのは、現実ではなかなか経験することのできない大自然の中での生活を満喫できる、というものがあるだろう。未開発の無人島に移住し、魚を釣り、虫を追いかけ、サクランボを拾う。自然と気持ちが和らぐ。我が家も例にもれず、お家時間を「あつ森」で楽しく過ごした。

さて、最近周知されてきたのが、「SDGs」。「SDGs」は人間に関するものから、環境に関するものまで幅広くカバーした十七の目標を、二〇三〇年までに達成し、持続可能な社会を目指そうというものである。政府や企業が行っている例としては、レジ袋の削減やプラスチック製だったストローを紙製に変えるなどの取り組みがある。私たちも、生活の中で、マイバッグを持参したり、クーラーの設定温度を高めにしたなどの取り組みを、日々行っているものの、実際それがどのような効果をもたらしているのかは想像しづらい。

そこで、子供から大人まで大人気の「あつ森」だ。このゲームでは、たまに海や川で、空き缶や長ぐつが釣れることがある。今は、それらが釣れたとき、おみくじのはずれを引いたようで、ちょっと楽しい気分になることができる。しかしこれが、ゲーム内の自分の行動如何で、その環境が壊れたらどうだろうか。海ではごみばかりが釣れる。海岸は波に乗ってきたごみや魚の死骸で埋まり、ついには四季豊かだった島が、猛暑と豪雨に見舞われる。そんな仕掛けがあったとしたら、バーチャルの世界とはいえ、環境に配慮した生活を送ろう、と意識するようになるのではないか。バーチャルの世界の中だからこそその行動のしやすさで学んだ適切な行動を、実生活に生かすことも出来るかもしれない。ゲームをしながら私は、ぼんやりとそんなことを考えた。

「う～わっほー！ながぐつだ！海や川をキレイにしよう！」

ながぐつが釣れない海にするために、私はまず何をしよう。